

## 30年7月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 7月1日～ 28年7月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
7月分の回答企業数は11社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 27.8	△ 22.2	△ 16.7
	マツ	△ 40.0	△ 40.0	△ 40.0
	広葉樹	△ 27.3	△ 27.3	△ 18.2
消費動向	スギ・ヒノキ	7.1	△ 7.1	△ 7.1
	マツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 11.1	△ 11.1	△ 11.1
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 18.8	△ 18.8	△ 18.8
	マツ	△ 50.0	△ 38.9	△ 38.9
	広葉樹	△ 10.0	△ 20.0	△ 20.0

・チップ用国産原木の入荷動向はスギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの消費動向は7月の増加から8月、9月は減少に。マツ、広葉樹とも3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹の在庫動向は3カ月連続減少。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/7月	8月	9月
スギ・ヒノキ	8.3	0.0	0.0
マツ類	0.0	7.1	7.1
広葉樹	6.3	6.3	6.3

・チップ用国産原木の購入価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・燃料向け原木の価格高騰及び国有林のシステム販売が不落のため入荷なし。仕入、消費、在庫とも全ての樹種で減少。在庫はスギ・ヒノキ 3.0→2.5カ月、マツ類 0.5→0.5カ月、広葉樹 2.5→2.0カ月（東北）。

・山梨県に合板工場が2工場できるとのこと。2019年稼働予定とのこと。年間12万m3の針葉樹材（うち6万m3は山梨県産材）が必要とのこと。よって他県（長野、埼玉）から高値で購入するようで、ますます針葉樹の確保が厳しくなるのではないかと（関東）。

・国有林のパルプ材入荷は始まったもののその他は低迷（中部）。

・雨の影響が予測されるが仕入、消費、在庫動向に大きな変動なし（中国）。

・7月の大雨の影響及び被害にて仕入は減少見通し。翌月、翌々月も林災害にて仕入は減少見通し。在庫は、仕入減少にて当月やや減少、翌月、翌々月と減少見通し（四国）。

・スギ・ヒノキは高水準で横ばい予想。マツは終了なので影響なし。広葉樹は6月に予想以上に入荷したので7月はやや減少だが、それでも高水準の入荷となっている。スギ・ヒノキの消費は、先月製紙会社の機械トラブルにより減少したため今月はやや増加。今後も計画通り生産予定。広葉樹は変わらず計画通り。全樹種計画通り生産しているものの入荷が高水準のため在庫は微増。マツは少量のため影響なし（九州）。

・宮崎市近郊からの広葉樹原木の仕入は困難な状況が続いている。消費・在庫は少ない状態が続いて（原木価格）

・国有林のシステム材など県外からの引き合いが多く、全ての樹種で価格上昇（東北）。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも価格変化なし（中部）。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも価格変動なし（中国）。

・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも原木価格変化なし（四国）。

・広葉樹原木価格は横ばいで推移（九州）。

## 30年7月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/7月	8月	9月
生産動向	スギ・ヒノキ	7.1	△ 7.1	△ 7.1
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 16.7	△ 5.6	△ 11.1
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 14.3	△ 21.4	△ 21.4
	マツ類	△ 37.5	△ 37.5	△ 37.5
	広葉樹	△ 16.7	0.0	△ 5.6
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 16.7	△ 25.0	△ 25.0
	マツ類	△ 35.7	△ 35.7	△ 35.7
	広葉樹	△ 18.8	△ 31.3	△ 25.0

・木材チップの荷動き動向は、スギ・ヒノキは7月の増加から8月、9月は減少に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・出荷動向はスギ・ヒノキ、マツ類とも3カ月連続減少。広葉樹は7月の減少から7月は横ばい、9月は再び減少に。

・在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/7月	8月	9月
スギ・ヒノキ類	0.0	0.0	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	0.0	0.0	0.0

・チップの出荷価格動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも横ばい推移。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・スギ・ヒノキ、マツ類は入荷量の減少に伴い出荷量も減少。広葉樹はスギ、マツ類減少のため出荷量やや増加（東北）。
- ・原木入荷に合わせた生産状況。需要はあるものの生産に合わせた出荷となっている（中部）。
- ・生産、出荷、在庫動向とも変動なし（中国）。
- ・生産・出荷動向とも製紙用、ボード類用、燃料用等制限なく当月横ばい、翌月、翌々月はやや減少。在庫は当月やや減少、翌月、翌々月減少見込み（四国）。
- ・5月、6月と製紙会社の機械点検等により針葉樹チップが減ったが、7月からは全樹種フル生産。チップ在庫は持っていない（九州）。
- ・広葉樹原木の仕入が難しく、出荷・在庫とも少ない状況が続いている（九州）。

## (木材チップ価格)

- ・全ての樹種価格変動なし（東北）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも変化なし（中部）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともチップの出荷価格に変動なし（中国）。
- ・チップの出荷価格に変化はない（四国）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいで推移（九州）。